

目的 密着度の高い衿の適合性の一要因である頸部形態的因子を求めるため、青年女子50体の頸部体表面を観察し、報告した。(本大会1977) しかし青年女子だけでは充分把握し得ない。今回は観察し得る限度である65~75才女子について試み、青年女子の頸部形態の特徴の位置づけ、及び頸部の年令的变化を調べた。

方法 衿は一枚の布で頸部の立体特徴のすべてを含ませるもので、この立体化に必要なカーブはネックラインにあると考える。この情報を得るため、頸部の一部を単純化して可展面とし、展開した。即ち、胸骨上点、頸椎点を通るネックラインを印し、この点から上部に直線で4cmをとり、これによって囲まれる体表面を立体裁断によって採取した。その他、頸部立体特徴に関する計測24項目、頸部の前面、側面、後面の写真による観察・計測項目については、両者の各々についての主成分分析、両者の平均値の差の検定。これらの結果と体表面展開図との関連。被験者は新潟市在住の65~75才女子50名である。

結果 体表面展開図の三大特徴。① 上向、下向パターン。後頸角度と最も関連が深く、この測定によってパターンを推定することができる。両者の差は認められない。

② ネックラインに現われるカーブ。僧帽筋の位置と飛達に影響を与えたと考えられ、一般に青年はカーブが強く、老年は弱い。この明確なカーブの出現率、青年72%、老年26%。③ 体表面展開図の前頸角度、青年38.4度、老年29.6度。即ち頸付根周径に比べ、4cm上部では老年に大きな変化が認められた。